

## 平成 30 年度第 2 回三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会議事録

1 開催日時 平成 30 年 9 月 18 日

2 開催場所 三重県栄町庁舎 第 41 会議室

3 出席者数 出席 13 名 欠席 2 名 傍聴者 1 名

4 内容 事項

- ( 1 ) 第 4 次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画 ( 2019 - 2022 ) 中間案について
- ( 2 ) ヘルプマークの普及について
- ( 3 ) その他

5 概要 ( 開会行事、事務局からの説明は省略 )  
協議事項

( 1 ) 第 4 次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画 ( 2019 - 2022 )  
中間案について

- ・事務局より案について説明を行った。

【委員意見】

- ・e-モニターの内容は添付されているか。  
結果の添付はない。抜粋して 22 ページ～24 ページに記載している。

【委員意見】( 23 ページ )

- ・質問の施設は、細かく限定していますか。  
特に限定していません。

【委員意見】( 2 ページ )

- ・「さまざまな人が・・・」の前に「できるだけ」を入れたほうがいいのでは？100%は無理なので。それともあえて入れていないのか。
- ・条例の趣旨からいくと県民皆さんが対象なので、「できるだけ」で限定しなくてもいい。

双方の意見があるので、事務局で検討します。

【委員意見】( 37 ページ )

- ・バリアフリー調査は、単に多機能トイレの有無だけを調査しても意味がない。それをきちんと評価することが大事。プロセスを入れたほうがよい。
- また、調査や指針が目指すものが不明確なので、もう少し具体的にイメージできるように記述するべき。

当事者の意見を聴く機会をこれから整備していきたい。

【委員意見】(37 ページ)

- ・指針は基準を設けるべきで、最低基準では意味がないと思う。  
現時点では、推奨基準を設けるイメージではいる。

【委員意見】(10 ページ、29 ページ)

- ・現在の出前講座はどちらかという受身のような気がするので、子供たちが「自ら考えて行動する」きっかけ作りになるようなものに変えていってはどうか。伊勢市ではUD製品のアイデアを募集している。子供たちが自ら考えるきっかけづくりが必要(夏休みの宿題、自由研究)
- ・学校の受け入れも生徒の障がいに合わせて対応するようになってきた。  
ヘルプマークの啓発をきっかけとして取り組んでいきたい。UD 団体は、県の手を離れ、いろいろ工夫してやってもらっている。UD 団体と協議しながら取り組んでいきたい。

【委員意見】(12 ページ、36 ページ)

- ・バリアフリー法の改正情報もある。
- ・鉄道関係のガイドラインも10月に改正予定であり協議しながら検討したい。

【委員意見】(36 ページ)

- ・言葉の定義について、「進める」という表現は、県が進めるという意味で、「支援します」というのは、県が補助するという意味であり、「促進する」というのは、事業者に要請するという意味でいいのか。  
違いは補助金を出しているか、出していないのかの違いを表している。
- ・表現が分かりにくいので、「要請」のほうが良いのではないか。

【委員意見】(20 ページ)

- ・二つとも「三重県バリアフリー観光ガイド」の本の写真なので、窓口や取組がイメージできる違うものにしてはどうか。ツアーセンターからも提供できるとおもう。
- ・今、伊勢を案内するときに、おもてなしヘルパーとか、手話でガイドしたり、これまでのガイド+ が求められており、取り組んでいる。(観光ガイドと他の団体とのマッチング)そのような内容も追記してはどうか。

【委員意見】(46 ページ)

- ・事業者の障がい者雇用について触れなくてもよいが。
- ・法的に対象とならない100人未満の事業所でも雇用する取り組みをしてほしい。また、バリアフリールームも50室未満であっても取り組んでいただけような、意識の高い三重県であってほしい。  
32 ページ、33 ページのところに記載している。

【委員意見】(12 ページ、36 ページ)

- ・屋外駐車場の屋根は必須か？屋根があると助かる。
- ・施設をよりよくするのは経済的にも難しいかもしれないが、ちょっとしたことでぐくよくなることがある。(トイレの便座の位置を何パターンか用意する。鍵はサムターンではなくレバー式にする。風呂の手すりは色を変えて、区別できるようにする。)

【委員意見】(47 ページ)

- ・社会福祉協議会との連携について、どのようなイメージか。

【委員意見】(資料1-1)

- ・農福連携について、教えてほしい。

32 ページに障がい者雇用を含め、広い意味での社会参加を促していく象徴的なものとして記載している。

【委員意見】(41 ページ)

- ・「障がい者」には体温調節ができない人、人工呼吸器をつけた人など、医療ケアが必要な「重度障がい者」もいる。それを加えてはどうか。

【委員意見】(32 ページ)

- ・ダイバーシティの取組がはじまり、拡がりつつある。外国人観光客も増え、また増やそうとしている。計画について外国の方がどの程度知っているのか、e-モニターなどを活用して取組に参画しているか評価することも必要である。

【委員意見】(41 ページ)

- ・避難所のことが書いてあっても、避難方法の明記がない。さまざまな人に対して、どのように情報を伝えるのか、逃げる方法を示す必要がまずあると思う。

【委員意見】(30 ページ)

- ・啓発ポスターは余白が多くてもったいない。そのまま使わなくてはいけないのか。
- ・バスへの展開はわかったが、電車への展開は？

国から要請があれば取り組んでいきたい。

マークがたくさんあるということは、迷いどころである。広い範囲で通じるヘルプマークを啓発していきたい。

【委員意見】(40 ページ)

- ・わかりにくい県のホームページだが、もっとアイコン等を活用してPR できると思う。

【委員意見】(47 ページ)

- ・出前講座など UD 団体と社協の連携について、具体的な形で考えているのか。

## (2) ヘルプマークの普及について

【委員意見】

- ・駅などでもポスターを見かけるようになったが、外国の方にもわかるように多言語での表示を追加してはどうか。外国の方は、意味を知ればすぐに行動を移すと思う。キーパーソンを通じて広めているので、お願いしたい。